

海の向こうから

■ この度は、西日本豪雨災害により、お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈りすると共に、被害を受けられた地域の皆様にお見舞いを申し上げます。1日も早い復興を心よりお祈りいたします。さて、2018年も終盤を迎え、今年もたくさんの隊員が広島県から世界各国へ出発しました。海の向こうの現地隊員からもお便りが届いています。今号は災害ボランティア活動をはじめ、国内の活動報告も満載です。まずは現地隊員の活動レポートです！

01

ラオス発！現地活動レポート



サバイディー！みなさんこんにちは。2017年度1次隊でラオスにPCインストラクターとして派遣されております、花岡早織と申します。早いもので赴任して1年が経過しました。今回は私の任地や活動に関してご紹介させていただきます。

任国ラオスについて

ラオスは、東南アジアのインドシナ半島の真ん中にあります。北は中国とミャンマー、東はベトナム、南はカンボジア、西はタイと、5つの国に囲まれた内陸国です。海はありませんが、大河メコン川が国土を貫くように流れています。国土の70%が山岳・高原地帯で、山と川に恵まれた自然豊かな国です。「ポーベンニャン（大丈夫だよ）」や「ダイ（できるよ）」という言葉をよく使うラオスの人は、とても穏やかで大らかな性格の人が多くですが、この悠大な自然の存在が彼らの人生観を形成しているように思います。国民の6割が仏教を信仰しており、寺院やオレンジ色の袈裟をまとって歩く僧侶を日常的に見ることができます。

活動について

私は、首都ビエンチャンにある「ラオス青年同盟」という大衆組織が運営する職業開発センターで活動しています。要請内容は主に、コンピュータの初心者コースの立ち上げと授業の運営です。言語は「ラオ語」。ラオ語で書かれた既存の教科書や教材はほとんどありません。また、生徒もさまざま。マウスを持つのも初めての方が大半、あとは、 $+$ $-$ \times \div の計算式がわからない、文字の読み書きができない…という人もいました。生徒の諸事情もさることながら、自分の拙いラオ語の方もまた問題でした。伝えたいことがあるのに伝わらないもどかしさに落ち込むことも多いですが、生徒が粘り強く話を聞いてくれ、理解してくれた瞬間は本当に嬉しく思います。生徒の「できた～！」「わかった～！」という表情を見ることが今の生きがいです。(笑) 今は、ラオ語で書かれたテキストや有効な教材を1つでも多く作成することと、日々の授業をより良くすることを目指し活動しています。また、最近は活動と並行して、「原爆展」の準備をしています。ラオスでは初めての実施です。ラオスはベトナム戦争において大量のクラスター爆弾が地上に投下されており、戦争が終結し43年経った現代でも不発弾の処理が進まず、今も爆弾に怯えながら暮らす地域があります。ラオスも日本も戦争の経験があり、平和を願う気持ちは同じではないかと考え企画しました。このイベントでラオス人と日本人とで知識や考えを共有し、改めてそれぞれが平和の大切さについて考える1つのきっかけとなればと思っています。(活動レポート：2017-1 PCインストラクター 花岡 早織)



今年のテーマは「つながる」

6月2日（土）に留学生会館にて帰国報告会を兼ねた親睦会を開催しました。今年は3名の帰国者とOVと一般参加者を含めた合計27名が参加。企画全体を通して参加者同士の「つながり」が深められる場となりました。

国際色豊かなポットラックパーティー

一人一品料理を持ち寄るポットラック形式の食事会を行いました。鳥の丸焼きや、手作りシフォンケーキといった手間暇かかった料理から、キルギス風サラダ、エルサルバドルのタコス、マレーシアのイカンピリス（マレー風ダシジャコ）、インドネシアのナシゴレン、カンボジアのスガオマレア（ゴーヤの肉詰め）など、任地の料理もテーブルに並び、国際色豊かで賑やかな食事会となりました。

今年の発表者はこちらの3名！



平成 27 年度 3 次隊 エルサルバドル
青少年活動 岡田雅道さん

エルサルバドルの文化紹介や任地での活動を紹介。任地では、主に卓球指導を行い、卓球の道具を送るなどエルサルバドルでの卓球の普及や発展に尽力されました。指導していた子どもがエルサルバドルの代表選手に選ばれるなど、嬉しい出来事もあったそうです。



平成 28 年度 2 次隊 スリランカ
環境教育 坂本真弓さん

1年間という限られた期間のなかでも、ごみ問題への改善提案や3Rの普及活動など、様々な環境教育活動を精力的に実施されました。中でも印象的だったのは、坂本さんの帰国後も現地の人々が自立して環境問題に取り組むことができる体制作りを実践されたところでした。



平成 27 年度 3 次隊 キルギス
青少年活動 片山美弥さん

活動を通して片山さんが疑問に思ったことは、キルギス人の“自主性の乏しさ”でした。子どもが「主体的に考える力」を伸ばす工夫を常に考えながら活動に取り組み、主体的に考えられる人材を増やすことが、ひいては現地の発展につながる」という信念を持ってキルギスのために尽力されました。

帰国後の活動について考える時間も

「協力隊経験は帰国後どのように活かすか」「広島で協力隊経験をどのように活かすことができるか」といった帰国後誰もが気になるテーマについて、グループディスカッションを行いました。OVからは自身の体験を踏まえたアドバイスがあったり、広島での国際協力についてそれぞれ情報交換をしたりと盛り上がりを見せ、有意義な時間となりました。最後に、「自身のこれからの夢、目標」についてグループ内で共有し、今後の活動をみんなで応援しました。

次回は、平成 30 年度に帰国する平成 28 年度隊を囲む会となります。次の帰国隊員のお話も楽しみにしています！

（活動レポート：平成 26 年度 1 次隊モルディブ 小学校教育 梅木愛子）



豪雨が発生。広島県 OB 会は JOCA や JICA と協力し、坂町での活動を支援しました。

豪雨時、私はカメルーンで経験した雨季のゲリラ豪雨を思い出しながら、東広島市の自宅の窓越しに猛烈な雨を眺めていました。2日間にも渡る豪雨の影響で、ずっと楽しみにしていたカーブのチケットが無駄になり、すさんだ気持ちで空を眺めていました。すると、突然の災害アラート。しばらくすると Yahoo! のトップページにも「避難準備」という文字が表示されるようになり、いよいよ大変なことになっているのではないかと不安に駆り立てられました。側溝から水が溢れ、バケツをひっくり返したような雨が止まらない。当然電車は止まり、高速道路も通行止め。そんな状態が2日間続いたのち、ようやく雨が上がり、日常が戻ってくるかと思っていました。この時は被害の全容を想像すらできませんでした。

発災から一週間。災害ボランティア開始。

土砂災害の影響により高速道路や鉄道は復旧せず、物資が届かない状態になりました。スーパーやコンビニは品薄状態。ガソリンスタンドは長蛇の列。広島市から通勤している同僚は3時間以上かけて東広島までやってくる。地域によっては断水が続き、床上浸水や土砂で家や庭が埋まってしまったところも。テレビやラジオでは被害状況を逐次放送していました。数年前には緑井で土砂災害が発生し、その際にも OV が現地に入り活動を行っていました。当時私はまだ任国にいて、故郷に対して何もできないのか…と歯がゆさを感じていました。その経験があったため今回は、災害から一週間、ボランティア受け入れ態勢が整ったのと同時に東広島市の社会福祉協議会でボランティア活動を行い、2日目には JOCA が坂町小屋浦のボランティアセンターの立ち上げを行っているという情報を OB 会のメーリングリストと Facebook ページから得て、私も他 OV と現場入りを決めました。坂町の被害状況は言葉を失うほど深刻なものでした。

活動。そして一人一人が出来ることを。

自衛隊や警察、消防が懸命に作業する横で、私たちは支援を必要としている人とボランティアを繋ぐ活動を行いました。JOCA と連携し、次々にやってくるボランティアと共にそれを必要としている家へ。作業の概要説明とグループのリーダー決め、家具の運び出しからゴミ捨て、土砂の運び出し、避難所周辺の仮設トイレの掃除、ボランティア登録の説明、スコップや一輪車といった資材の管理、ドリンクや熱中症対策物品の配給など、業務は多岐に渡りました。ボランティア活動が終了した後は次の日のニーズの聞き取りを行い、JOCA や自治会に引き継ぎを行いました。途中から JICA のサポートもあり、坂町での活動もスムーズになり、全国から社会福祉協議会の応援も駆けつけ、OB 会としての活動を一旦終了しました。住民ニーズに対して出来ることを一緒に探したり、コーディネーションを行う活動は、私が任国で学んだ活動そのものでした。また、多くの協力隊 OV がそれぞれの地域でボランティアを行ったり、自分ができる支援に携わりました。これからも今回の豪雨被害を風化させず、引き続き出来る限りの支援を行いたいと思います。

(活動レポート：平成24年度3次隊 カメルーン 村落開発普及員 山本 主税)



■ 世羅の梨イベントから、江田島のみかんイベントへ。

OB会の親睦を深め、一般市民の方々と交流の輪を広げる目的で昨年世羅町で実施されたイベントを、今年は是非我が町江田島で開催したいと思い、企画させていただきました。今回、企画段階で7月の豪雨災害が発生し、復旧作業が続く中イベントを実施すべきか迷いましたが、みかん狩りを予定していた川西農園さんが被災を乗り越え今季も開園されることを知り、復興の一助になればと開催に踏み切りました。

■ 海岸清掃！みかん狩り！OVの農場で収穫体験と盛りだくさんの一日！

イベント前半は、コスモ石油と広島FMがパートナーシップを組んで毎年開催しているクリーンキャンペーンに参加する形でヒューマンビーチ長瀬の清掃活動を実施しました。我が家は数年前から参加しているのですが、子供に遊び感覚でボランティア活動や環境保全活動に親んでもらうにはもってこいのイベントです。広い海岸も500人でゴミを拾えば1時間足らずですっかりきれいになりました。

清掃活動後は、道路を一本隔てた川西農園さんで昼食とみかん狩り。もぎたてのみかんは程よい酸味があり、スーパーで売られているものとは一味違います。園内で土砂崩れが発生したため例年より規模を縮小しての営業になっていたようですが、今回の企画に快く協力して下さい、逆にパワーをいただくとともにすっかり川西さんの大ファンになってしまいました。今回、OV関係者だけでなく一般の方々も参加して下さいだったので、昼食を取りながら改めて自己

紹介の時間を設けました。このような場に参加されるだけあって皆さんそれぞれ興味深い活動しておられ、新たな繋がりが生まれる場となりました。

最後は協力隊OVの農場で野菜の収穫体験。若手キュウリ専業農家として活躍している峰崎OV（22-1、ブルキナファソ、村落開発普及員）の農場では、きれいに手入れされたキュウリを袋が破れそうになるほど収穫させてもらいました。一方、大規模な家庭菜園を粗放的に管理している私の畑では、サツマイモや落花生、大根、パクチーなどを収穫してもらいました。

終わりに

直前のキャンセルなどもあり最終的な参加者は26名でしたが、最近OB会活動から遠ざかっているOVや一般市民の方々が参加して下さい、とても有意義な時間になりました。江田島に限らず広島各地には様々な形で活躍しておられるOVがたくさんおられるはず。「次回は是非我が町で開催したい！」という声がかかることを期待しています！

（活動レポート：平成16年度2次隊 コスタリカ 野菜 石津 智久）





今年も広島県協力隊OB会は、屋台、地球ひろばコーナー、協力隊体験談に参加しました。当日は天気にも恵まれ、多くのお客さんが来場されていました。

■ アイギール初登場！@屋台

今年の屋台ではじめての試みとなったアイギール。パプアニューギニアのニューブリテン島で食べられる郷土料理です。現地では、バナナの葉っぱで鶏肉や青菜、イモ類、バナナなどを包んで、ココナッツミルクで蒸し上げる料理なのですが、この度は鍋で煮込んだ形で再現しました。多くの方から「美味しい」といったお言葉をかけて頂きました。岩下OVの勤める広島文教女子大学からも学生さんが応援として来てくださり、活気のある屋台となりました。

■ テーマは中南米！地球ひろば

中南米をテーマとして、いろいろなブース、コーナーを設置しました。メキシコのお祭りなどで飾られるパベルピカド（切り絵）、ぬり絵、中南米クイズ、民族衣装体験、中南米の楽器づくり、音楽を流してのダンスなどなど。たくさんの方が踊ったり音楽を楽しみながら、いろいろなアクティビティを体験する場は、大人から子どもまで大盛況の場となりました。

■ 何を食べてました？任国でのタンパク源体験談

今年の体験談は「食」を切り口にトークセッションを行いました。～タンパク質摂取からまじめに考える、青年海外協力隊の食事情～といったテーマで、司会進行は濱長真紀OVと山本主税OVが実施し、話し手は花岡匡子さん（エクアドル・理学療法士）、細川光宜さん（パプアニューギニア・木工）、一面貴子さん（グアテマラ・栄養士）の3名にて実施されました。現地で食べたタンパク源として、ブタ、鶏といった日本でも食されるものから、アリ、幼虫といった昆虫類まで、実際の写真を見ながらリアルな体験を聞くコーナーは、大いに想像力を掻き立てるものとなりました。みなさん、各々の任国で食べたネズミに関して、臭みが強いなどという点で途上国あるあるを共有していました。個人的は、幼虫を食した細川さんの感想で、「皮はシャウエッセンだけど、中身はカニクリームコロッケ」といった部分が大変面白く、一番印象に残りました。



【活動レポート：平成26年度3次隊 パプアニューギニア
コミュニティ開発 三田嵩】

訓練所～任国派遣前の想いを形にするためにアンケートを取りました。隊員のみなさん！任国の生活や活動で慣れた頃に、たまに見返すと初心を思い出せますよ。

アンケートの内容

- ①名前 ②隊次／派遣国 ③職種 ④応募したきっかけ ⑤訓練所での辛かった思い出
⑥訓練所での楽しかった思い出 ⑦活動中に挑戦したいこと ⑧出国前の心境 ⑨意気込みを一言！



①細間 翔 ②2017-3/ グアテマラ ③野球 ④大学時代に短期ボランティアとして参加し、いつも長期ボランティアとして参加したいという思いがありました。⑤たくさんの活動に参加したかったが、語学の勉強とうまくバランスをとることが難しかった。⑥多くの仲間ができ、いろんな価値観をもった人と関わることで私自身の成長に繋がりました。⑦スペイン語の語学力向上、グアテマラの子どもたちにいろいろなアプローチをかけて野球を好きになってもらいたい。⑧わくわくしています！⑨大きく成長して 2年後その経験をいかしたいです！



①大島 美佳 ②2017-3/ ザンビア ③コミュニティ開発 ④開発途上国を訪れた際、子供たちがゴミの山の近くで暮らしているのを見て、彼らの為に何かしたいと思ったことがきっかけです。⑤ワークショップの準備。⑥班のみんなと前夜祭で組体操をしたこと。⑦歯の大切さを伝える！⑧自分に何ができるのだろうと改めて考えています。不安な気持ちでいっぱいです。⑨自分の経験を生かし、現地の方の保健衛生知識を向上できるよう頑張ります!!



①宗永 幸雄 ②2017-3/ カンボジア ③教育行政・学校運営 ④妻がインターネットで情報を得て勧められた。⑤語学授業がシニア向けで、負荷が小さくてあせったこと。⑥日々の語学。⑦できるだけ多くの人と話す。⑧早く出国したい。⑨できるだけ現地語だけで活動したい。



①亀井 且博 ②2017-3/ ブータン ③廃棄物処理 ④技術を必要とする発展途上国の役に立ちたい。⑤座学での講義。⑥他のボランティアとの交流。⑦多くの人と出会い、友人となる。⑧楽しみ。⑨悔いのない活動。



①河尻 侑亮 ②2017-3/ ネパール ③環境教育 ④海外という新しい場所で自分の力を試してみたいから。⑤語学勉強。⑥様々な人に出会えたこと。⑦1つでも多くイベントを企画したいと思っています。⑧期待と不安な心境です。⑨挑戦。



①壇上 成美 ②2017-3/ パナマ ③環境教育 ④子供の頃から社会問題や環境問題等に興味があり、学生時代もボランティア活動を多く行ってきたので、生きている限り、出来ることをしたいと思ったから。⑤門限が早いこと。⑥2か月の訓練を通して、ほとんどが楽しい時間でした。この年になって、2か月間びっしり新しい語学を勉強できる機会はないので、とても有意義でした。⑦笑顔を増やす。⑧不安9割。⑨生きる。



①上竹 嘉晶 ②2017-4/ コロンビア ③品質管理・生産性向上 ④前職で若手指導の際、老害を感じた事。⑤語学。⑥仲間(同期)との触れ合い。⑦ものづくりもろもろ。⑧とにかく不安、何も手につかない。でも楽しい。⑨頑張らない!!



①前田 依里 ②2017-4/ パヌアツ ③医療機器 ④臨床工学技士という、日本でも珍しい職種で協力隊に参加できるということを知り興味を持ちました。⑤とにかく語学。昔から英語が大嫌いだったので苦労しました。⑥職種も年齢もまったく違う人が集まるので、様々な人との出会いや交流がありました。⑦ダイビング。⑧期待と不安。⑨全力で楽しみます!!



①讃岐 香織 ②2018-1/ ベトナム ③番組制作 ④JOCVに続いて2度目です。新しい世界で人とつながる喜びをもういちど。⑤毎日の決められた生活。いそがしい!⑥良い仲間との出会い。⑦日本の文化を広めたい。⑧ワクワクしています。⑨新しい発見を楽しみにしています。



①酒井 剛佑 ②2018-1/ ナミビア ③小学校教育 ④ YD ボランティアでフィリピンへ行き、スモーカーマウンテンを見学したりそこで暮らす人々の家にホームステイをしたりすることで、「私も何かの役に立ちたい。」と思ったことが、志望動機になりました。⑤語学学習。⑥野外訓練。⑦授業の提案・ワークショップ(理科実験などについて)・クラブ活動(サッカー)⑧まずは現地の方々との交流する時間をとっていきたい。⑨とにかく無事に帰ってくる。そしてできるなら任国のニーズに即した支援をしたい(持続可能なもの)。



①山田 英恵 ②2018-1/ モンゴル ③小学校教育 ④学生の頃にさまざまな国に行き、自分に何かできることをしたい！という夢と先生になるという夢、どちらも叶えたいと思ったことがきっかけです。⑤本当に毎日楽しくて、笑わなかった日はないですが…強いて言うなら語学!!! ⑥協力隊でなければ会うことのなかった仲間に出会い過ごした”毎日”が本当に楽しかったです。⑦算数・図工・体育を教えることは、もちろんですが日本料理を伝える料理クラブや日本の文化を伝える、文化祭のようなこともしたいです。お好み焼きとオタフクの普及。⑧とにかく楽しみです！不安より楽しみが大きいです!! ⑨とにかくチャレンジしてみる！心は熱く頭は冷静に！行ってきまーす!!



①加藤 友章 ②2018-1/ ラオス ③コミュニティ開発 ④前職で東南アジアの営業担当をしていたが、より現地に密着した形で働いてみたいと考えたから。⑤ラオス語の学習、アルファベットを一から覚えて発音するのが苦労した。⑥一生に一度しか経験できないだろう大人数(181名)での集団生活で異なるバックグラウンドを持った方と交流できたこと。⑦現地では特産品の拡販が求められていることなので、国内外を問わず魅力を発信できるイベントを開くなどの活動をしたい。⑧不安はほとんどなく現地でどんな面白いことができるかを考える日々。⑨現地の方々に加藤が来てくれて良かったと言ってもらえるよう尽力したいと考えています。



①羽立 大介 ②2018-1/ ガーナ ③障害児・者支援 ④前職がしんどかったこと。⑤睡眠不足。⑥全部。イベントも日常も全て楽しく笑ってばかりでした。⑦ブラインドサッカーの指導普及。⑧ドキドキ・ワクワク・時間が足りない…。⑨生きて帰ってきます。



①城本 涼史 ②2018-1/ ルワンダ ③コミュニティ開発 ④言葉も文化も違う環境で自分に何かできるのか知りたかったから。⑤コンビニまで歩いて30分だったこと。フランス語。⑥いろいろな人と知り合えたこと。⑦任地にピザ窯を作ること。⑧楽しみ!! ⑨たくさん失敗する。



①柴田 将志 ②2018-1/ ブラジル ③日本語教育 ④現在日本で生活する日系人の方々が多く滞り、南米の生活や文化を経験し、そこで学んだ知識や経験を帰国後(日本語教育の現場で)反映できると思い応募しました。⑤目標言語や講座テストに向けて知識を身に付けるまでのプロセスと、出来ない投げやりになっていた自分との戦い。⑥総勢36名というNJV・NSV隊員の方々と共に訓練生活を過ごす事ができたこと。⑦地域で行われる活動をより豊かなモノにしたい。⑧楽しみにしています。Anciosa ir para o Brail. (ブ

ラジルへ行きたくて) ⑨ブラジルと日本の掛け橋になれるよう努めます。



①岡本 紗貴 ②2018-2/ ベナン ③コミュニティ開発 ④将来のキャリアアップのため。⑤人間関係 ⑥2か月間の語学訓練。⑦現地の方々だけでなく、他の援助機関の人々ともたくさん交流したい。⑧日本食をあきるまで友達と食べたい。⑨マイペースに相手の立場に立って考えることを心がける。



①真加部 湧大 ②2018-2/ インド ③コミュニティ開発 ④もう一度インドで働きたかった。次は少しでも貢献できるように。⑤1人の時間がなかった。⑥これからも関わるであろう友人を作ることができたこと。⑦一人一人、信頼し合える方々を増やしていく。⑧楽しみです。⑨思い出す度に 胸が熱くなるような出会いや思い出を1つずつ作っていきます。



①叶堂 秀城 ②2018-2/ コロンビア ③小学校教育 ④以前ボゴタ日本人学校(コロンビア文部省より)派遣されコロンビアにお世話になった。今回はコロンビアのために働くため。⑤特になかったです。⑥若い人との交流。⑦スペイン語のマスター。コロンビアの歌をギターで。コロンビアのスタンダードとなるような現物カリキュラム作り。⑧早く行ってがんばりたい。⑨スペイン語を覚えないと仕事に差し支えるので、しっかりマスターしコロンビアに貢献したい。



①西川 松之 ②2018-2/ インドネシア ③金属加工 ④40年間の鍛造業界での経験を途上国にも生かす事 ⑤インドネシア語の習得。⑥インドネシア語が話せる様になった事。⑦インドネシア鑄造工場を世界一の工場とします。⑧楽しみです。⑨頑張ります。



①加藤 晴香 ②2018-2/ ベトナム ③障害児・者支援 ④カナダで経験した異文化交流が楽しく自分の世界が広がったように感じました。自分の知識や技術が役立つのであれば、他の国で働いてみたいと思いました。⑤コンビニへ行くのに片道30分の山登りしないといけなかった。⑥色んな経験がある人と出会えたこと! ⑦日本の文化、平和を伝えたい。現地の祭りです。⑧早く行きたい! わくわくしています! ⑨思いっきり楽しんできます!



①西村 勇太 ②2018-2/ ベトナム ③理学療法士 ④大学の先生が理学療法士として協力隊に参加していた話をきいて興味を持ったことがきっかけです。⑤早起き、1日おきの魚料理、語学。⑥山を下ってコンビニの前で飲むビール。⑦リハビリのプログラムを現地の人に合わせて組み立て、患者様に還元できる活動を行いたいです。⑧期待7割、不安3割。⑨健康第一。



会報発送作業

印刷した会報誌の発送作業を行いました。
一枚一枚心を込めて送っています！

2017
12/9



2017 年度 3 次隊知事表敬・壮行会

6 名の隊員を合わせ合計 17 名の方に参加いただきました。
新隊員のみなさんのアンケートは 6 ページをご覧ください。

2017
12/19



まつながカープデー

13 名が福山市に集まりました。タイ・ラオスカレーの販売を行いました。



2018
2/12



家族連絡会・総会・協力隊ナビ

協力隊留守家族の方々を招き、ボランティア事業や支援体制について説明を行いました。
3名の帰国隊員パネルトークや、派遣地域ごとのOVと留守家族の意見交換の時間も。



2/18



2017 年度 4 次隊 県庁表敬・壮行会

2 名の隊員を合わせ合計 13 名の方に参加いただきました。
新隊員のみなさんのアンケートは 6 ページをご覧ください。

3/20



平成 27 年度隊お帰りなさい会・協力隊ナビ

一般参加者 4 名を含め 27 人が集まり、3 名の帰国隊員が
活動報告を行い、各国の料理を食べながら親交を深めました。

6/2



2018 年度 1 次隊知事表敬・壮行会

7名の隊員を合わせ合計 21 名の方に参加いただきました。
新隊員へのアンケートは 6～7 ページをご覧ください。



西日本豪雨災害 支援

OB 会として JOCA と JICA の支援の下、
坂町で活動を実施しました。



中国ブロック交流会（鳥取）

鳥取県に中国 5 県の OB が 60 人以上集合。ザリガニ釣りや BBQ、活動報告を行い親交を深めました。



2018 年度 2 次隊 県庁表敬・壮行会

6 名の隊員を合わせ合計 22 名の方に参加いただきました。
隊員の意気込みは 7 ページをチェック！



みんなで海岸清掃 & みかん狩り in 江田島

海岸清掃やみかん狩り、野菜収穫体験を行いました。
盛りだくさんのイベント詳細は 4 ページをチェック！



国際フェスタ 2018・協力隊ナビ

今年の屋台はパプアニューギニア料理。そして体験談は
タンパク源がテーマ。詳細は 5 ページをチェック！

今後の予定

- 2018年 12月18日：2018年度3次隊
知事表敬・壮行会
- 2019年 2月3日：まつながカープデュー
- 2月9日：家族連絡会・総会
- 3月中旬：2018年度4次隊
知事表敬・壮行会

今年、会報誌担当2年目の61年度2次隊吉池俊二です。今年の会報も会長の竹内さん山本さんに編集をお願いし、新隊員アンケート・隊員からのレポート・各行事の報告等、隊員の皆様に助けられ何とか出来ました。ご協力くださった皆様ありがとうございました。最近イベントに参加出来ておりませんが、今後もいろいろなイベントに参加させていただきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

ブロック交流会 2020 広島。あなたのアイデア募集中！

2020年 五輪を超える記憶をあなたがプロデュース！ ☆スキルを活かした1ネタ募集☆

2020年のブロック交流会@広島では、あなたの知識や技術を活かした催しを求めています。モノづくり、アクティビティ、頭脳戦 etc... 参加者の記憶に残る活動ネタを是非ご提供下さい！任地で盛り上がったあのネタ、任地で仕入れたこのネタ、大・歓・迎！！お問い合わせは下記のメールアドレスまで！

スケジュール

- 2019年夏～秋（本番同時期）：
リハーサルイベント（広島）
- 2019年9月14-15日：中国ブロック交流会参加（山口）
@ 秋吉台家族旅行村
- 2020年夏～秋：本番

過去3年間のブロック交流会のアクティビティ

- 2016 岡山：コテージ泊、OBの子どもと一緒に鶏を
生きている状態から料理
- 2017 島根：青少年交流の家泊、登山/ボルダリング/
バームクーヘン → キャンプファイヤー
- 2018 鳥取：コテージ泊、ザリガニを釣って食す

家族連絡会・総会開催のお知らせ

2019年2月9日（土）に家族連絡会・総会を開催します。お久しぶりの方も、初めての方もご参加ください。場所は、広島市留学生会館2階ホールです。家族連絡会は12時集合～15時閉会、総会は15時過ぎ～家族連絡会が終わり次第開始となります。

総会の議決権について、会費（2,000円/年）を払った人のみ議決権を持てるという事になっています。この会報が郵送で届いている広島県のOBの皆さまは、名簿に載っている300名の中に入っていますので、総会やイベントに積極的にご参加ください。会費を払ってなくても総会・イベントには出来ますが、是非会費を払って参加して頂ければと思います。

広島 JICA デスクからのご案内

国際協力に関心を持つ皆様、あるいは、誰かのために何かしたいと考える皆様が、それぞれの立場でそれぞれの関わり方が出来るよう、情報を発信し、一緒に考えていきたいと思っています。最新情報は右のQRコードから（JICA 広島デスク FACEBOOK ページ）。

広島県 JICA デスク 推進員 橋本 082-242-8879



青年海外協力隊 広島県 OB 会 連絡先

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 会長 竹内 英祐 (20-4 ウガンダ 土木) | <input type="checkbox"/> 広島県出身者の任国滞在中の隊員数：
49名 (32カ国) |
| <input type="checkbox"/> 事務局長 上野 寛治 (21-2 ドミニカ国 音楽) | <input type="checkbox"/> 帰国した隊員数：1,119名 (88カ国) |
| <input type="checkbox"/> 会報誌担当 吉池 俊二 (61-2 リベリア 自動車整備) | <input type="checkbox"/> 累計：1,168名 (89カ国) |
| <input type="checkbox"/> メールアドレス：info@jocv-hiroshima.sakura.ne.jp
(イベントお問い合わせや住所変更などはこちらにご連絡ください) | |